

秋晴れの出陣
上ノ国八幡宮で御徒士行列

9月20日、上ノ国地区の祭事である上ノ国八幡宮渡御祭が執り行われ、伝統の『御徒士行列』が同地区を練り歩きました。

かつて、松前藩が藩祖『武田信廣』の地である上ノ国まで行脚したことになむこの行列は、裃姿の御徒士達が、『やあ！来たり』と声を張り、足を左右に振り上げるのが特徴で、正午から日暮れまで、長い行列がまちに賑やかな風を呼び込みました。

行列が向かう先々では、料理やお酒で出迎えるお家や沿道からカメラを構える人等が行列を見つめ、地域の伝統として愛され続けている様子がかがええました。



味覚の秋
集う料理と多彩な食材



9月20日、上ノ国町物産センター連絡協議会（佐藤真治会長）主催による「秋の味覚祭」が道の駅もんじゅで開催されました。

天候に恵まれ、会場には特産品や料理を販売する多彩な店舗が並び、上ノ国の秋の味覚を求めて多くの人が出で賑わいました。

特に、恒例となっている秋の食材を盛り合わせた500円バーベキューでは長い長い列が生まれ、取れたてジャガイモのつかみ放題にも大勢の人だかりができていました。

このほか会場では、旬の野菜をふんだんに使った焼きそばやくじら汁、ジューシーな豚串など、多彩な味覚が溢れ、上ノ国の秋を楽しむ人々で大盛況となっていました。

心と体を磨く空手道
南檜山大会が本町で開催

9月23日、日本空手協会主催による第34回南北海道空手道選手権大会が町民体育館で開催され、管内から約150名が集まり、本町の空手道少年団からも19名が参加しました。

空手道の大会は、演舞の完成度を競う『形』と、試合形式の『組み手』に分かれており、形では正確な動きと気合いのこもった声が迫力を生み、組み手では相手に負けまいと、緊張感漂う試合が行われました。

観客席では、駆けつけた親御さん方が見守り、時には歓声、時には拍手を送るなど、わが子の試合に熱中していました。

また、この日は入団したばかりの園児2名も出場し、小さな体ながら周囲の期待に応えようと頑張っていました。



海の観光資源
ブリが光る上ノ国の海



6月から11月末にかけて、地元の遊漁船で行うブリ釣りが人気となっています。

北海道のブリ釣りは、本町などが発祥の地として多くの釣り人に知られており、6月から始まり、11月の10kgを超える大型寒ブリまで、長い期間楽しめることから、ブリ釣りのメッカとして親しまれています。

主に遊漁船の出発地となる汐吹漁港には、今年も多くの釣り客が訪れており、近くは函館、遠くは北見、別海、中標津など道東・道北などからわざわざ足を運ばれているなど、最盛期を迎えているようです。

遊漁船北斗丸・笠谷順悦船長にお話を伺うと「喜んでもらっているようでこれからおもてなししたい」「リピーターもいて嬉しい」との言葉があり、本町の海の観光資源として、好評を博している様子でした。